

主催



RELEAD ASIA 2017

～アジア人材育成プログラム～

この報告書の著作権は日中学生交流連盟、及び国際交流基金日中交流センターに帰属します。
内容の全部または一部を複製し利用することを禁じます。

2018年3月発行

協力

伊藤忠商事株式会社、SMBC日興証券株式会社、外務省、株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル、全日本空輸株式会社、日本電気株式会社、藤田観光株式会社、株式会社文明堂東京、株式会社三菱東京UFJ銀行

目次

1. 事業概要	03
2. 活動の内容	
2-1 活動ダイジェスト	04-06
2-2 企業訪問の様子	07-10
2-3 企業アンケート結果	11
2-4 講演の様子	12
3. 活動を終えて	
3-1 参加者の声	13-19
3-2 参加者アンケート結果	20
4. 協力企業、機関一覧	21
5. 主催団体紹介	22-24
6. 学生実行委員紹介	25
7. ご協力・ご協賛のお願い	26



日中学生交流連盟
リードアジア実行委員会 実行委員長
水野 裕大(みずの ゆうた)



日中学生交流連盟、そしてリードアジアプログラムは2012年、尖閣諸島/釣魚群島問題を発端に日中関係が「史上最悪」と言われるまでに冷え込んだ時期に開催された「日中青年討論会」を契機に誕生しました。多くの方々の支えもあり、プログラムは2017年に節目となる5回目を、日中国交正常化45周年と共に迎えることができました。

今回、プログラム企画に当たって、当プログラムとして「新しいこと」を節目に取り入れることを意識して取り組んで参りました。例えば、初日のオリエンテーションではOBOGの方々と対話できる機会を設けました。これは、縦の繋がりを作ることで、日中交流がより深化すると考えたからです。また、日中の参加者の間に相手国に対する知識量のギャップが大きいという課題から、本プログラム前には「事前研修」を日本人学生に向けて行いました。当事前研修には、プログラム参加者以外の学生も参加した点で、「日中交流の裾野を広げる」ことを掲げる本プログラムにとって意義深いものでした。

リードアジア2017では、コンセプト「今の自分を変える、これからの日中を変える」を掲げました。プログラムは企業訪問が柱で、使用言語も日本語という点で、参加の敷居が低く、参加者の参加動機も多様であると認識しています。それでも参加後には誰もが共通して、相手国に想いを馳せるきっかけになったと実感していただけたなら、幸いです。会期中に行った勉強会では、素敵な言葉を知りました。「你的心有多大、你的世界就有多大～自分の心の広さで、自分の世界の広さを決めていく～」という言葉ですが、この言葉のように、世界を広げる役割を当プログラムが担っていくことを願っています。

末筆ではございますが、プログラム開催にあたり多大なるご尽力をいただいた国際交流基金 日中交流センター、協力企業、その他の法人、個人の皆様に衷心より御礼申し上げます。日中交流を深化させるべく、より一層精進して参りますので、今後とも温かいご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



国際交流基金 日中交流センター事務局長
堀 俊雄(ほり としお)



国際交流基金日中交流センターは2006年の設立以来、一貫して日中の青少年交流の活動運営・支援を行ってきました。日中学生交流連盟との共催である「リードアジア」プログラムへの支援もそのひとつです。

2013年に開始した本事業は今年で5年目に入りました。「リードアジア」に集った日中の大学生たちも、延べ250名近くを数え、初期の参加者は既に社会人となり、様々な業界で活躍しています。

今年の「リードアジア2017」プログラムでは、参加人数は43名（日本人学生19名、中国本土から来日した中国人学生9名、日本で留学中の中国人学生7名、学生スタッフ8名）にのほりました。中国各地での「ふれあいの場」の運営に携わる学生も参加してくれ、交流の輪が広がった感があります。

日中国交正常化45周年の節目でもある今年、無事5周年を迎えることができましたのは、ひとえにこのプログラムにご協力いただきました企業や団体、外務省をはじめとする関係者の皆様のおかげであります。ここにあらためて厚くお礼申し上げます。

本事業に参加した学生達は、8泊9日の合宿形式の日程で代々木のオリンピックセンターで寝食を共にしながら、本事業実現に至るまでのさまざまな困難を克服し、企業訪問やディスカッション、勉強会等を実践してきました。

今年のプログラムでは企業8社と外務省への訪問が実現しました。参加者たちは企業訪問等を通じて、活発な議論をぶつけ合う中で、国境や価値観の違いを超えて相互理解を深め、新たな視野を開くことができたものと確信しています。

参加した学生が将来、日中両国をはじめ、本事業タイトルのとおり「アジアをリード」する人材に、ひいては世界で活躍する人材に育てほしいと願うと共に、これからも日中両国の多くの賛同を得て、本事業の活動の輪が広がっていくことを願っています。

1. 事業概要

【プログラム事前研修】

実施日程：2017年8月11日
開催地：東京
主催：日中学生交流連盟
参加人数：15人



【本プログラム】

実施日程：2017年8月20日～28日
開催地：東京
共催：日中学生交流連盟
国際交流基金日中交流センター
参加人数：35人
日本人学生：19人
在日中国人留学生：7人
中国本土学生：9人



【訪問企業・省庁】(50音順)

伊藤忠商事株式会社、SMBC日興証券株式会社、外務省、株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル、
全日本空輸株式会社、日本電気株式会社、藤田観光株式会社、株式会社文明堂東京、株式会社三菱東京UFJ銀行

【参加大学一覧】

日本側：

<関東>東京大学、東京外国語大学、慶應義塾大学、上智大学、早稲田大学、青山学院大学、お茶の水女子大学、神奈川大学、学習院女子大学、千葉大学、法政大学、津田塾大学、昭和女子大学、共立女子大学、創価大学、大妻女子大学
<関東以外>大阪大学、同志社大学、高知県立大学、立命館アジア太平洋大学、長崎大学、名城大学

中国側：

北京師範大学、北京理工大学、北京語言大学、上海財経大学、上海外国語大学、天津外国語大学、四川外国語大学、延辺大学、中山大学

【コンセプト】～日中交流に馴染みのない層へのアプローチ～

本プログラムの最大の目的は「これまで日中交流に馴染みのなかった学生に日中交流の楽しさ・意義を感じてもらう」ことです。本プログラムは、『日中交流』と『企業訪問』の2つのキーワードで構成されている点が、他の日中学生交流プログラムと大きく異なる特色です。多くの学生が興味・関心を抱いている「ビジネス」の要素をプログラムに取り入れることで、従来の日中学生交流プログラムではアプローチできなかった層に対して、日中交流への興味を引き出すことを図りました。企業訪問だけでなく、日中の学生が寝食を共にするなどの共同体験を経ることで、日中両国の相互理解を深めることができました。

2. 活動の内容

2-1 活動ダイジェスト

1日目・8月20日 集合、開会式

前日まで心配していた雨も上がり、日中の学生35名を迎え、「リードアジア2017」がスタートしました。緊張した表情で会場に到着した様子でしたが、席につくなり周囲の参加学生とすぐに打ち解け合う姿がとても印象的でした。オリエンテーションでは、プログラムの全体の流れ、また主催団体である日中学生交流連盟の説明を行い、アイスブレイクとして自己紹介ゲームに続き、プログラム恒例のマシュマロチャレンジも行いました。夕食後には、開会式としてこれまでの実行委員長3名に、プログラムに懸けてこられた熱い思い等を話して頂き、2016年度の参加者にも参加の学びや思い出について話してもらいました。参加学生からは、積極的な質問も多く飛び交い、とても充実した内容になりました。プログラムも5年目の開催となり、横の繋がりだけではなく、縦の繋がりも感じられた開会式となりました。



2日目・8月21日 企業訪問、講演会

企業訪問の1日目、伊藤忠商事株式会社とSMBC日興証券株式会社に訪問いたしました。いずれも今年が「リードアジア」として初訪問の企業です。企業訪問の初日でしたが、休憩の際も時間を惜しんで社員の方に質問をしている参加学生の積極的な姿がとても印象的でした。また伊藤忠商事株式会社での研修の様子を企業様の公式Facebookでも紹介して頂きました。夜の講演会では、朝日新聞経済記者の斉藤様よりご講演を頂きました。本年の4月まで北京にいらっしやっただけでもあり、メディアを通しての報道の姿について、現場での生の声をお聞きすることが出来ました。

3日目・8月22日 企業訪問、勉強会

企業訪問2日目は、午前中に全員で外務省を訪問させて頂きました。リードアジアとして外務省を訪問するのは今回が初めてです。昨年度のプログラム中の講演会でお越し頂いた大鷹様より、本年度もご講演を頂きました。午後は二班に分かれて、それぞれ藤田観光株式会社、株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベルを訪問しました。夜は「心を繋ぐ交流」をテーマとして、日中文化の違いについての勉強会を行いました。ディスカッションでは、回答によって日中の違いがはっきりと出るものから、日中の文化や、恋愛観など、様々な分野にわたって普段は聞くことの出来ない、一歩入りこんだ貴重な意見、またエピソードなどを聞くことができ、普段とは違った角度から取り組むことのできた勉強会となりました。



4日目・8月23日 企業訪問、特技披露会

企業訪問も3日目。訪問前夜には、参加学生の皆さんが訪問企業についての勉強会を独自で企画し、ラウンジで集まって一緒に勉強する姿が見受けられました。その積極的な姿勢が、この日の充実した企業訪問に繋がったのではないのでしょうか。この日は、午前中に全日本空輸株式会社、午後には株式会社三菱東京UFJ銀行を訪問しました。夜の特技披露会では、参加学生が歌やダンスを披露してくれました。また、8月生まれメンバーにバースデーサプライズを行い、非常に盛り上がりました。



5日目・8月24日 企業訪問、最終発表会準備

企業訪問もいよいよ最終日。2社に分かれて株式会社文明堂東京、日本電気株式会社に訪問しました。企業訪問以外の時間では、各グループに分かれ、最終発表会の準備を行いました。今年度は、「日中を繋ぐビジネスの提案」とのテーマのもと、これまでの企業訪問で頂いた企業様からのフィードバックを参考にしながら、準備が進められました。ほとんどのグループが寝る間も惜んで発表の準備を行っていました。グループ全員で「これまでの学びを活かした発表にしたい!」との真剣な思いで取り組んでいる姿がとても印象的でした。

6日目・8月25日 最終発表会、懇親会

午前中に、全グループの最終発表の準備が整い、午後よりオリンピックセンターにて選考会を行いました。投票によって高得点を獲得した上位3チームが、東京大学の本会場で成果発表を行う機会を得ることが出来ます。今後の日中を繋ぐビジネスの提案として、学生らしい視点と、新しいアイデアが光る成果発表会となりました。発表会及び、懇親会には今年も多くの方にご参加頂きました。受け入れをして頂いた企業関係者様、学生団体の皆様、OBOGの皆様のご支援ご協力があったのプログラムだということに身をもって実感しました。学生として、社会人の皆様とこの様に交流させて頂ける貴重な機会に感謝の思いで胸がいっぱいになりました。



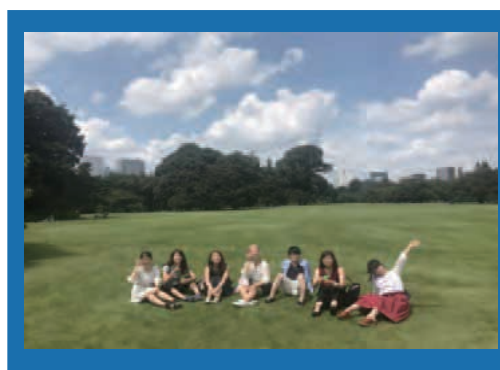
7日目・8月26日 鎌倉観光、料理大会

最終発表を終えた7日目はグループに分かれて鎌倉散策を行いました。都心とはまた少し違った風景を楽しむと共に、参加学生の交流もさらに深まった一日となりました。また、夕方から行われた料理大会では、日本食や中華料理を両学生が一緒に作り、食文化を通じた交流も行われました。メニュー決めや材料の買い出しなど、0からのスタートでしたが、多くの美味しい料理が完成し、笑顔広がる時間となりました。



8日目・8月27日 都内観光、打ち上げ

プログラムも終盤となり、この日はグループに分かれて都内散策を行いました。出発前に行先を決める際、「本土学生が帰国前にたくさんの思い出を作れるように!」という日本側学生のアイデアや配慮にとっても感動しました。公園でのピクニックや、原宿表参道等で世界の文化交流の最先端に触れ、たくさんの思い出と写真が残る観光となりました。観光後は、渋谷のカフェで打ち上げを行いました。この8日間での思い出話は尽きることなく、あっという間に時間が過ぎていきました。打ち上げ終盤で実行委員会が作成していたムービーを上映すると、中には涙を流すメンバーも。最後には、参加学生から実行委員への真心のこもった色紙と扇子のサプライズプレゼントもあり、涙あり笑いあいの打ち上げとなりました。



9日目・8月28日 閉会式、帰国

午前中の閉会式をもって、リードアジア2017プログラムが正式に閉幕しました。長いようであっという間の8泊9日間。しかし、この期間で日中の両学生が心から感じ取ったものはとても大きく、そして深いものであったと思います。本プログラムをもって終わりではなく、むしろ始まりとして、これからの日中の未来に続いていくのだと信じています。本土学生の見送りの際、涙しながら「また絶対会おうね!」「これからも一生日中友好に関わっていきます!」と決意する姿や、別れを惜しむ姿にこれからの日中の未来を約束しているかのような強い絆を感じました。



2-2 企業訪問の様子

伊藤忠商事株式会社 ～中国最強商社で学ぶ「三方よし」の精神～ 8月21日・AM

現在、史上最高益を更新するなど勢いがある総合商社・伊藤忠商事。参加者には伊藤忠が取り扱っているDoleのパナナやEvianの水が配布され、早速総合商社のビジネス領域の広さを実感させられました。初めに人事・総務部の方から「グローバル人材の育成」や、朝型勤務、110運動など伊藤忠が現在力を入れて取り組んでいる「働き方改革」について説明を受けました。次に伊藤忠経済研究所の方から「中国経済の多様性」について、続いて物流部門の方から「中国物流事業」についてレクチャーを受けました。中国における一大イベント「独身の日」を伊藤忠が裏で支えている、物流のダイナミズムに圧倒されました。最後に、伊藤忠商事に隣接する伊藤忠青山アートスクエア（テーマ「秩父宮記念スポーツ博物館【青山巡回展】～甦れ！オリンピックの感動を再び～」）を見学して伊藤忠商事のCSR活動も学びました。積極的に中国でビジネス展開しているだけあって、参加者の関心も高く、社員の方を囲んで熱心に質問している光景が印象的でした。



SMBC日興証券株式会社 ～社員の方との親密な交流～ 8月21日・PM

SMBC日興証券株式会社への訪問は、会社説明、講義、社員の方との交流という三部構成でした。会社説明や、その際に触れて頂いた証券の歴史についてのお話で、参加者は証券という業界を一層身近に感じられたことでしょう。次部の講義では、日本と海外のお力ネの動きについて講義形式で学び、直後の休憩時間では強く興味を抱いた参加者達はその内容について熱心に質問する姿も。第三部では、社員の方を囲んで学生と非常に近い視点から実際の業務や生活についての詳細なお話を伺いました。何人もの方からお話を頂いたため、会社や仕事について様々な視点から学びを得ることができました。また、社員の方の趣味等の話題で大変盛り上がり、グループも見受けられました。訪問の最後には、窓口の見学もさせて頂き、非常に内容の充実した訪問となりました。



外務省 ～草の根の国際交流活動の意義について再考する～ 8月22日・AM

霞ヶ関駅に着いた私たちは、ゲートをくぐり大きなホールにて外務省の対中事業やその役割の説明を受けた後に、「日中学生交流を進める新たな施策」についてディスカッションをしました。日中交流フェスや食事イベントを開催する、など思いの案を発表しました。参加学生の皆さんは、入省する時点での厳重な警備にも驚いていました。国際的な視野を持った学生にとっては、国の機関が取り組む国際交流にはとても興味があったように思います。一方で、国家間での取り組みや事業だけでなく、リードアジアのような学生主体の国際交流活動の意義についても改めて考え直せる、貴重な時間となりました。



株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル ～日中学生の視点からみた、日本のインバウンド観光客拡大～ 8月22日・PM

天王洲アイルにあるオフィスへとお伺いしました。代表の方から中国語でのスピーチが最初にあり、ホットな話題を織り込んだ歓迎のご挨拶に一同は感銘を受けました。その後、「インバウンドビジネス」をキーワードに訪日旅行市場の現状についてご説明をいただき、「2020年五輪に向けて、日本の旅行環境の改善すべき点」についてディスカッションを行いました。日本人班、中国人班に分けたところ、中国人からは「免税の手続き簡素化」や「wifiの充実」などリアルな声上がり、とても興味深かったです。国内のインバウンド消費を伸ばすべく、現役の留学生から意見をたくさん聞くことができよかったです。



藤田観光株式会社 ～日本の伝統文化とおもてなしの心～ 8月22日・PM

洋風ですっきりとした雰囲気のエントランスを奥に進み、最初に案内された場所は落ち着いた雰囲気と日本文化漂うレストラン「錦水」。初めに、藤田観光の経営理念をはじめ、企業としての取り組み等についてのお話をいただきました。説明後にはホテル内の客室をはじめ、チャペル等の見学へ。実際に社員教育をされている方より現場での生の声をお聞きすることができ、「プラスワン」の真心の気遣いに対し、日本のおもてなし文化についても再確認させて頂きました。また、ホテル内の庭園も案内して頂きました。実際に目で見て触れる、さらに肌で感じることで貴重な経験となりました。その後、「日本のおもてなし」に焦点を当て、グループごとにディスカッションを行いました。ホテル見学を通して感じたこと、さらには普段の生活にも焦点を当てながら、様々な視点からの議論となり、新しい気付きと多くの学びのある企業訪問となりました。





全日本空輸株式会社(ANA)
 ~「井戸を掘った人を忘れない」日中友好に尽力した先輩に思いを馳せる~
 8月23日・AM

今年は民間レベルの貿易構想の実現を通して、1972年の日中国交正常化に尽力された、全日本空輸株式会社の第二代社長岡崎嘉平太氏の生誕120年に当たります。さらに全日空・中国線就航30周年という節目とも重なった本年に訪問をさせていただきました。訪問の前半は岡崎先生の記念講座を行いました。貴重な思い出を載せた写真をめくりながら、岡崎先生の功績からお人柄まで感じさせるドキュメンタリーのようなご紹介をいただき、私達は当時の日中国交の開拓者の強い信念を感じながら、今の時代における「感情論ではなく、大局的に日中関係を考える」ことの重要性を認識しました。訪問の後半では、航空業界及び全日空様に関する様々な質問に対して、社員の方は懇切丁寧に解説してくださいました。2時間という短い時間でしたが、大変有意義な時間を過ごせました。



株式会社三菱東京UFJ銀行
 ~中国でのMUFGについて~
 8月23日・PM



JPタワーの30階近くまでエレベーターで上がり、高層フロアにて実施された今回の訪問は、銀行ビジネスについてレクチャーを受けた後に、「MUFGを中国での知名度をあげるには」についてディスカッションを行いました。それぞれのグループに社員の方が1人ずつ付いてくださり、アドバイスをくださいました。いかに日本の銀行が知名度を上げるかについて、学生らしい自由な発想で、ドラマを活用する案や大学と提携して若者にピンポイントで宣伝する案など様々な意見が出ました。各班において社員の方と話せる時間も長く、銀行に勤める方々がどんな仕事をしているのかイメージが湧きやすくなったことと思います。



株式会社文明堂東京
 ~百年続く老舗の思い:人をつなぐお菓子を~
 8月24日・AM



昨年に引き続き、二度目の訪問となる文明堂の東村山工場。今年は、昨年より訪問時間を延ばして頂き、工場見学、説明の他に売店見学もさせていただきました。社員の方による簡単な工場の施設説明の後に、工場見学の為に用意して頂いた白衣長靴に着替え、万全な除菌対策を経て、いざ工場内部へ。エアシャワーを潜ると、カステラ生地ほんのり甘い香りが広がっていました。工場では、五人一組になり、品質管理へのこだわりを入念に説明頂き、カステラの生産過程を見学しました。その後は再度会議室に戻り、文明堂の歴史から現在のブランディング戦略についてお話を伺いました。お土産に頂いた和洋菓子を持ち帰り、この日訪問に伺えなかった学生とシェアした時の皆の笑顔はとても印象的でした。



日本電気株式会社(NEC)
 ~アイデアを出し、ぶつけてまた生み出す~
 8月24日・PM



2年連続で訪問させて頂いたNECでは、社員の方も滅多に入れない、スタイリッシュなVIPルームに案内して頂き、序盤から胸が踊るスタートとなりました。毎年恒例の、社員の方による軽妙なトークで会社を紹介して頂いた後は、「イノベーションの起こし方」というテーマでお話を頂きました。目から鱗の斬新でロジカルな考え方の学びは、参加者にとって貴重な糧となるでしょう。後半はグループに分かれ、実際に教わった考え方を活かしながら、生活を便利にする製品・サービス開発のアイデアを出しました。どのグループの考案したコンテンツもよく練られており、大変魅力的でした。最後にはNECの社員の方から厳しくも暖かいフィードバックを頂き、訪問を終えた後にはどの参加者の表情も晴れ晴れとしていました。



2-3 企業アンケート結果

今回受け入れを決定した理由（複数選択可）

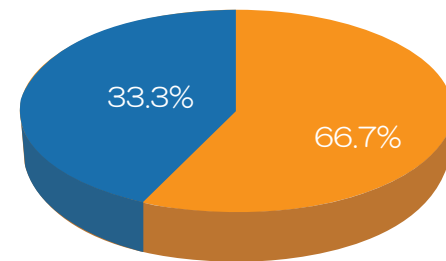
日中関係の発展に有意義な活動だと感じたから	8社	88.9%
信頼できる方からの紹介があったから	4社	44.5%
学生の意見、アイデアを参考にしたかったから	2社	22.2%
広報活動に有益だと考えたから	2社	22.2%
採用活動に有益だと考えたから	1社	11.1%

参加学生のレベル

高い	5社
やや高い	4社
普通	
やや低い	
低い	

受け入れを終えての満足度

5点(非常に高い)	6社
4点(高い)	3社
3点(普通)	0社
2点(やや低い)	0社
1点(低い)	0社
0点(非常に低い)	0社



企業様コメント抜粋

- ・日中国交正常化45周年に相応しい活動・プログラムで、大変有意義な活動であったと思います。
- ・少ないインプットと短い時間でアイデア出しからビジネスモデル発表までしてもらいましたが、想像以上に高いレベルのアウトプットでした。柔軟な思考力とまとめ上げる能力の高さを感じました。
- ・学生さん達は、お互い協力しながら真摯且つ前向きに一つの課題に取り組んでいて、とても素晴らしい活動だと感じました。
- ・学ぶ姿勢、向上心ともに素晴らしく、学生の目線等新鮮でこちらも勉強になりました。

2-4 講演の様子

①プログラム事前研修

プログラムの事前研修として、プログラム開催の10日前に、キャンングローバル戦略研究所の瀬口清之様にご講演をいただきました。内容としては、日本人向けに中国の現状を知ってもらうため、中国経済のマクロな動きや現状についてでした。日本の大学やニュースでは知る機会が少ない、中国本土での金融インフラの状況や経済発展について新鮮な内容ばかりでした。現地での滞在の長い瀬口様から直接リアルなお話を伺うことができ、より中国に対して抱くイメージがクリアになりました。

ご講演のあと、瀬口様の主導により、自己紹介の時間となりました。各々が「なぜリードアジアに興味をもったのか」「大学では何を学んでいるのか」などについて話しました。当日会うメンバーに事前に顔を合わせる事ができたという意味でも有意義な時間となったことと思います。

この研修には、9日間の本研修に参加予定の学生が10人ほど来てくれ、熱心に学習していました。また、本研修には参加しないがイベントに興味を持ってきてくれた学生や、昨年の参加者も来てくれました。中には高校生も来てくれ、実行委員一同、このような交流イベントの開催意義を改めて痛感とともに、国際交流に積極的な学生が多いことを大変嬉しくも思いました。

今回のオファーを快諾してくださり、中身の詰まった講演をいただいた瀬口様には深く感謝申し上げますとともに、学生主体での国際交流イベントを今後もさらに実施していきたいと感じた1日となりました。

【講演者プロフィール】

瀬口 清之 (せぐち きよゆき)

キャンングローバル戦略研究所研究主幹/アジアブリッジ(株)代表取締役

1959年生まれ。1982年東京大学経済学部を卒業後、日本銀行入行。在中国日本国大使館経済書記官、北京事務所長を歴任し、2009年3月日本銀行退職。同年4月よりキャンングローバル戦略研究所研究主幹。2010年11月、アジアブリッジ(株)を設立。



②夜のプログラムの講演

8月21日の夜は、朝日新聞社、経済部記者の斎藤徳彦様にご講演をいただきました。斎藤様は経済記者として国内でご活躍された後、中国清華大学での語学留学を経て、国際報道部にて中国経済を担当されています。斎藤様ご自身が執筆した記事を読みつつ、実際の取材の様子について話してくださいました。実際に記事を書いた方が目の前でしゃべっている、という感覚は新鮮で、新聞執筆者目線でも考えることができました。

文章を書くことよりも取材することのほうが大事、というお言葉には納得させられ、新聞記者という職業のイメージが変わりました。また、日本と中国では報道の立場が異なるというお話は、特に日本人学生にとってはとても興味深かったようです。今後の日中関係について経済の側面からのご意見を伺いました。外国からみた中国は発展著しい巨大な国家のようですが、斎藤様が中国国内から眺めるその国家は、自国の発展自体に対して戸惑っている部分もあるとのことでした。

最後のメッセージとして「よく自分で見聞きし、考えて、よく話してください」とメッセージをいただきました。これはメディアに関わるか否かに関わらず、我々学生も、当事者意識を持って身の回りに起こっている出来事について知識を深め、考えたいと強く思いました。

【講演者プロフィール】

斎藤 徳彦 (さいとう とくひこ)

1976年生まれ。99年東京大学卒、株式会社朝日新聞社入社。鳥取と神戸での勤務を経て2004年から東京本社経済部で経済取材に長く携わる。電機、商社、流通・食品、金融などの各業界や財務省の取材を担当。09年に中国・清華大学へ1年間、語学留学。13年4月から中国総局(北京)で、習近平体制1期目の中国経済の報道を4年間、担った。17年4月に帰国し、経済産業省担当。



3. 活動を終えて

3-1 参加者の声



ターン 永里名 ローリス
共立女子大学 家政学部・建築デザイン学科 1年

意見をあまり言えず人見知りしていた際、中国人の方が声をかけてくださりとてもフレンドリーに接してくれました。そこから企業訪問を始めさらに多くの中国人や他の日本人とも関わることができ、最後の観光のときには家族のように、一緒にいるのが当たり前で、素晴らしい体験ができたと思っています。



佐々木 美緒
早稲田大学 政治経済学部・政治学科 1年

リードアジアプログラムには、1年生から4年生、留学経験者、地方出身者、中国人、日本人、両国のバックグラウンドを持つ人など、いろいろな学生さんが参加していました。9日間一緒に企業訪問や文化交流を行いながら、さまざまな経験を積んできたみなさんのお話を聞くことができ、大学で勉強するのはまた違った、とても良い刺激を受けることができました。また、1年生で参加した私は、これまで就職に関してあまり意識したことがなかったのですが、今回のプログラムでさまざまな職種の企業に訪問し、お話を聞いたりグループディスカッションをしたりすることで、私がこれからやりたいことは何なのかを考え始めるきっかけになりました。



高木 美咲
東京大学 文科三類 1年

今まで日中交流のプログラムは未経験だったので、開催までは大変不安でした。しかし、前半は企業訪問における課題やディスカッションなど共通の壁を前にしたことで、日中関係なく協力することができ、学生同士が学年、国籍に関わらずお互いを尊敬し合うきっかけができました。後半の文化交流では、もう日中の学生の区別がつかないほど打ち解けていました。机上の思考のみでは得られない実質的感覚としての交流経験を今後の自分の人生の基礎にします。参加したことを全く後悔していません。ご協力くださった皆様に感謝しております。ありがとうございました。



岡本 すみれ
青山学院大学 国際政治経済学部・国際政治学科 2年

リードアジアに参加することが出来たことに、心から感謝しています。様々なアクティビティーや会話をする中で、日本人と中国人のかけがえの無い友人が作れた事が、今回一番嬉しい事です。また企業訪問という貴重な経験をし、会社の雰囲気や社会人の方の働く姿勢を実際に見る事が出来ました。さらに、グループディスカッションを通じて、皆の知識と能力に刺激を受け、よりビジネスや社会、日本と中国について深く学びたいという、意欲が生まれました。今回の反省点は、自分は日本について、また中国について何も知らないと感じたことです。大学での授業、本、インターンなど様々な場面で、常に学ぶ姿勢を忘れずに日々を過ごしたいと感じました。かけがえのない友人に出会えたので、中国語をこれからも学んでいこうと思います。次に再会する時まで、上達させたいです。谢谢！



寺田 鈴音子
高知県立大学 文化学部 2年

日中交流と企業訪問が一つになっているプログラムに惹かれリードアジアへの参加を決めました。リードアジアに参加していたみんなは大多数の日本人・中国人とは違って日中間の国境を越えることに躊躇がなく、仲良くなるのも早かったように感じます。近い将来、日中の国民が私たちのように仲良くなれば良いなと思いますし、そのためには自分に何ができるのかという事を考えるきっかけになりました。

尾勢 英彦
創価大学 教育学部・教育学科 2年

今回このプログラムに参加することで、中国の方たちと交流しつつ、日本の企業について知ることができ、大変満足できる内容だったと感じています。企業訪問を通して、自身の視野を広げるとともに、日中の仕事に対する考え方の異なる点を知ることができ、自身の仕事に対する思いが、参加前に比べて変わったのを実感しています。他にも、同じ参加者と移動時間や寝る前に、ちょっとしたおしゃべりをする事で、参加者同士の仲を深めることができました。内容の深い話から、たわいもない話までして盛り上がったことが私の思い出になっています。このプログラムに参加し、仕事に対する思い、日中に対する思い、両方に良い変化を感じており、このような素晴らしいプログラムに参加できたことに、実行委員を始め、参加者の皆様に深く感謝したいです。



古作 優美
お茶の水女子大学 文教育学部・人間社会科 2年

今回、リードアジア全体を通して、はじめは全員初対面であるにも関わらず、終わった頃には深い話まででき、共に協力できる「仲間」が出来ました。企業訪問、発表では大変な時も多かったですが、協力し一緒に頑張ることで絆が深まったと感じられました。企業訪問におけるディスカッション等では、国同士の文化の違いが現れることもあれば、逆に考え方に共通する部分があり、日中両国の違いを面白さとして感じました。また、日中関係について元々興味があったため、企業の日中に関わる事業の話を中心として聞ける機会は、将来の選択肢として、中国と関わっていくことを具体的に考えることができよかったです。



土屋 就未
津田塾大学 学芸学部・国際関係学科 2年

9日間とても充実していました。毎晩1つ、次の日の目標を立てて、それが達成できたり、できなかったりしながら色々なことを考えました。普段はあまり強く自分の意見を言うことができず、心にしまったままのことが多いのですが、このプログラムが始まってからは自分でもびっくりするくらい、別人のように意見を言うことができました。短い間でしたがとても濃い日々を過ごせたので、成長できたと思います。中国に行ってみたいし、中国語も勉強したいし、中国人の友達も沢山作りたいです。中国人のことは理解できないのではないかとずっと思っていたのですが、今はみんなのことが大好きです。みんなと出会えて良かったです。実行委員の皆さんには心から感謝しています。ありがとうございました。



三隅 楓子
立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 3年

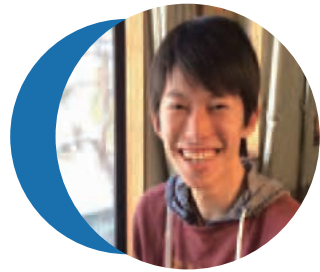
日中交流と企業訪問を掛け合わせたプログラムということで、今までの文化体験では知ることのできない一歩深いところまで中国について知ることができた気がします。グループディスカッションや最終発表などチーム内で力を合わせるしかないプログラムがたくさんあり、その中で日本人だけでは思い浮かばないアイデア、中国人だからこそ気づくことのできる点など多種多様な意見が飛び交い、とても有意義な交流ができました。ユニークで優しくやる気満々のメンバーと忘れることのできない9日間を送ることができました。



上田 桃子
名桜大学 国際学群・語学教育専攻 3年

このようないい機会を与えてくださり本当にありがとうございました。実行委員の皆さんは本当に優しく、しっかりしていて、感謝しかないし、尊敬しています。9日間という本当に短い期間だったにも関わらず、沢山の経験をして、日中沢山の友達が出来て、初めて会ったとは思えない沢山の経験ができて本当に良かったです。またこんな機会があったら沖縄にいてもどこにいても必ず参加したいと思いました。実行委員の皆さん本当に疲れ様でした、何ヶ月もかけて企画して下さり本当にありがとうございました。大好きです！





吉田 悠一郎
法政大学 法学部・国際政治学科 3年

知り合いもいないし、どのようなプログラムになるかわからないという開催前の状況で不安半分、期待半分でしたが、参加してみて全体としてとてもアットホームな雰囲気であり、分からないことは気軽に実行委員の方に尋ねることができましたし、参加者の方々とは協力し、助け合い、気づけばこのプログラムが自分にとってとても居心地の良い場所になっていました。正直、中国に対して悪い印象を持たれる日本人が多い昨今ですが、学生の間にこのようにプログラムに出会い、参加し、実際に中国人学生と触れ合う中で本当の中国について知ること、考えることができたと思います。これからも日中の架け橋となっていければという思いを強くしました。



笹平 毅
千葉大学 工学部・ナノサイエンス学科 3年

応募時から企業訪問・文化体験に惹かれて絶対に参加したいと思うプログラムでした。実際に、企業の方と交流できるというのは今までにない貴重な機会であり、新しい視点から社会について学ぶことができました。また中国の学生と交流を通して日本からは知らない中国の発展や中国の学生の価値観を学ぶことができ、自分の価値観を非常に向上させた9日間でした。そして学んだ事で何より大事だと思ったのが、同じ価値観・夢を持つ人との交流の大切さです。このメンバーはとても温かく、居心地が良く、学習への意欲を刺激してくれた最高の仲間たちです。



青島 早苗
学習院女子大学 国際文化交流学部・国際コミュニケーション学科 3年

プログラムの内容やメンバーにも恵まれ、充実した9日間を過ごすことができました。ディスカッションでの皆さんのアイデアの発想の柔軟性に感心しつつ、そこから私自身学ぶことや得られることも多かったです。本当に自分を成長させる良い機会となりました。また交流を通して国や学年、大学の垣根を超えてメンバー同士仲良くなれたので本当にリードアジアに参加して良かったなと思います。これからもここでの縁を大切にしながら日中関係に何らかの形で携われていけたらと思います。



成瀬 光
大妻女子大学 比較文化学部 3年

様々な企業の全貌を知るきっかけとなった上に、日本全国・中国全国から集まってきた仲間と毎日を過ごしていく中で、友情以外にも信頼や意見交換の際の心理など、自分の中で新たな発見もあり、様々なことを学べました。つらく苦しい時もありましたが、この8泊9日間はとても有意義な日々でした。今後、就職活動をする上で、活かして生きたいと思っています。



葛西 萌
神奈川大学 外国語学部・中国語学科 3年

はじめは生活面や、グループディスカッションにとっても不安を感じていました。しかし、リードアジア2017を終えた今は、参加して本当に良かったと心から思っています。企業訪問では社員の方々とお話を通して自分の将来やりたいことをより明確にすることができ、留学生や他大学の学生達とグループディスカッションや観光、共同生活を経てずっと付き合っていきたいと思える友達にも出会うことができました。今後は、この9日間の経験を活かして就職活動と中国語の勉強に専念していきたいと思っています。

木村 文音
同志社大学 グローバルコミュニケーション学部・中国語コース 3年

先輩の紹介で知り、帰国後日本での日中学生交流がしたい、そして企業訪問を通して、自分の将来について考えたいという思いで参加を決意しました。9日間を通して、日中友好に貢献したいという同じ志を持った40人と出会うことが出来たからです。そんな彼らと企業訪問をし、将来について語り合えたことの有意義さは計り知れないものとなりました。熱い思いを持ち、みんなの柱となってくれた実行委員8人にも心から感謝します。言いたいことは1つです。「親爱的中日朋友们、出会いに感謝、そして永遠に。また会おう！」最後になりましたが、国際交流基金をはじめ協力団体、企業様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



岡村 かりん
東京外国語大学 国際社会学部・中国語学科 4年

この度はリードアジアの活動に参加させていただき、私は「社会に出て働く」ということについて学ぶことができ、そして多くの素敵な友人と出会うことができました。企業訪問に関しては日本を代表する企業様を訪れ、貴重なお話を聞かせて頂き、日中学生のグループワークを通して自分で軸を持ちつつも、他の人の意見をしっかりと聞き柔軟さを持つことの大切さを強く感じました。合宿が始まる前は友人ができるという期待はあまり大きくありませんでした。しかし色々な背景を持つ学生が皆国境を越えてすぐに打ち解け、終わる頃にはまるで何年も前から知り合いだったかのような感覚でした。かけがえのない出会いをくださったリードアジア関係者皆様に感謝申し上げます。



松葉 佳子
長崎大学 多文化社会学部 4年

自分の進みたい道について考えることができ、違う国の人と交流ができ、心からの友を作ることができました。とても有意義で素敵で充実した8泊9日だったと思います。地方の大学から参加したため、知り合いが全くおらず、友達ができるか、楽しめるか、すごく不安でした。でも、みんな壁がなく、友好的で、すぐ仲良くなれました。普段関わりがない大学の人と関わることで1つのことに対して様々な観点から見ることができ、たくさん学べました。大変な面もありましたが、学べることが多く、いろんな経験ができ、すごく楽しかったです。



阿部 宏子
創価大学 国際教養学部・国際教養学科 4年

この9日間は長いようで短かったように感じます。中国人の学生と一緒にグループワークができ、学ぶことも多くとても楽しかったです。両者の視点の違いが分かった一方で、共通点も多く発見できました。特にNECとJTBでのワークは難しかったですが、中日の相互理解もでき企業への知識も深まりました。どの企業も元々興味がある所だったので、有意義な時間が過ごせたと思います。来年の就活に向けてよい準備材料ができました。最終プレゼンは大変苦労しましたが、最後にはみんなが納得いく提案ができていい経験になりました。ここで得た友情をこれからも長く続けていきたいと思っています。



張 思
上海外国語大学 日本文化経済学部・日本語学科 1年

とても素晴らしい9日間でした！参加者のみんなは優しい方々で、親切に話しかけてもらって心温まりました。企業訪問の内容はとても充実していて、特にディスカッションや最終発表会が非常に勉強になりました。そして料理大会もとても印象深いです！グループのみんなで驚くほど美味しい料理を作れて、いっしょに食べながら喋るのが楽しかったです。9日間でみんながすっかり仲良くなり、もう兄弟みたいな存在です。参加者と実行委員のみんなが大好きです！最高の夏でした！





邱子倩
天津外国語大学 日本語学部・日本文化学科 2年

最初は学校のお知らせからこのリードアジアプログラムを知りました。その時には既に大変興味があり、迷わずに申し込みました。ずっと楽しみにしてきて、そしてこの9日間でこのプログラムに参加できて良かったとずっと思いました。もともと日本の企業には興味を持っていませんでしたが、日本人のおもてなし精神に感心しました。帰国しても更に日本企業のことを勉強しようと思いました。



銭晶
四川外国語大学 MTI日本語翻訳 M1

本当にリードアジアに参加できて、良かったと思います。こんなに疲れたことはありませんでしたが、価値はあります。同い年の日本側の学生と知り合って、自分の視野も広がりました。それに、多くの日本の有名企業を訪問できて、光栄だと思います。特に、ディスカッションに対する印象が深いです。中国では、このようなディスカッションがなく、今回は日本での勉強の方法を知って良かったと思います。でも、時々言語が通じない場合もありましたので、これからもっと頑張らなければなりません。最後に、リードアジアの皆様へ感謝の気持ちを申し上げたいと思います。リードアジアが永遠に続けられるように心より祈っております。



班宇識
北京理工大学 外国語学院・日本語文化学科 3年

日本企業を見学したかったので、このプログラムを応募してみました。参加させていただき、本当に良かったです！日本の大手企業を訪問したり、グループのメンバーとディスカッションしたり、いろいろ勉強になりました。また、日本側の大学生と交流することができ、本当に良かったです。今後機会があれば、また日本人の学生たちと交流したいです。



楊贊
上海財経大学 外国語学部・日本語学科 2年

企業訪問により普段あまり接することのない業界についての理解が深まりました。ディスカッションとプレゼンでは一所懸命アイデアを考え出し、本気で相手とぶつかることができました。なによりも、たったの9日間で43人の大学生と一緒に大声で笑えるような真の友になれ、本当にありがたいと思っています。これからもリードアジアで学んだことを生かし、繋がった縁を守っていきたいと思っています。国と国は、人と人です。



宋媛媛
北京語言大学 外国語学部・英語学科 3年

振り返ってみるとリードアジアを参加して本当によかったと思います。9日間という短い間で、今日日本または世界をリードしている企業を見学し、中国と日本の優秀な学生たちと一緒に生活し、話し合い、新しい友達もでき、充実かつ有意義な時間を過ごしました。企業訪問について最初は若干不安でしたが慣れるとだんだん楽しくなってきました。参加者のみんなは専攻、年齢、国籍それぞれであり、自分と違う視点、考え方や発想を聞けて、非常に勉強になりました。そして、参加者だけではなく、実行委員も1人ひとり個性豊かで、プログラムの人間性が感じられました。最高の夏、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。



梁碩
延辺大学 外国語学部・日本語学科 3年

本当に皆さんのおかげで、9日間を無事に楽しく過ごすことができました。本当にお疲れ様でした。皆さんの素晴らしい背中を見て、自分はまだまだ未熟だと思いながら、もっと努力しなければならないと心の奥で決めました。今回が私の励みとなり、またいつか皆さんに会えるように頑張るので、その際は是非是非また話してくださいね。



魚亞拿
北京師範大学 心理学部 3年

最初は、日本文化に対してとても興味があったので申し込みました。このプログラムを通じて、日本語の練習もして、日本の大学生と友達になりたいと思いました。自分の下手な日本語が最初はとても心配でしたが、皆さんとても優しく交流は順調でした。メンバーは一人ひとり独特な性格があってとても面白かったです。企業訪問はちょっと疲れそうになりましたがとても充実でした。リードアジアに参加していなかったら私は多分そんな素晴らしい企業を訪問する事ができなかったらと思います。リードアジアでの思い出はとても貴重だと思います。



梁瀛迪
慶應義塾大学 経済学部 1年

このプログラムに参加してたくさんの優秀な学生さんと関わることができました。自分の日本、または日本人に対する印象も随分変わったと感ずきます。勿論、お互いの文化や考え方などに違いはありますが、それでも共存できることに感心しました。この9日間企業で学んだこと、皆さんから学んだことが人生の貴重な財産だと思います。留学生として自分が本当に日中の架け橋となれました。今後も日中交流に自分の力を尽くしたいです。



宇文志鴻
天津外国語大学 日本語学部・ビジネス日本語学科 4年

この9日間で企業訪問と文化交流をしました。企業訪問を通じて日本人の生き方を見て、中日企業の違うところを見つけました。皆と一緒に中日友好のプロジェクトを考えました。これらはただの観光からでは得られないものです。みんなと仲良くなって、いろんなものごとについて話し合いました。この9日間を通して得たことは、今後の勉強の役に立つはずですが、みなさんとの友情を大切に、そして一つ一つの努力によって中日交流の架け橋になりたいです。



温皓恒
早稲田大学 政治経済学部・経済学科 3年

今回のリードアジア2017に参加して本当に良かったと思います。まず企業訪問について、効率的に企業を訪問することにより、将来のキャリアを考える上で、大きな参考になりました。さらに、現在日本企業は中国市場に関してどうしているかについても勉強できました。また、多くの人々と知り合い、9日間共に生活したことで、皆とも非常にいい友達になりました。深夜一緒にゲームしたり、話したりして、深く交流できるようになりました。皆が東京に集まって、非常に感動した夏を過ごしました。本当に感謝の気持ちしかありません。



劉 越
上智大学 経済学部・経済学科 3年

リードアジア2017に参加することで、まず沢山の友達が出来たのは今回一番の財産だと思っています。皆と一緒に買い物したり、悩み相談をしたり、とても楽しかったです。ディスカッション以外の時間でも、勉強会や普段の食事など様々な場面で活発な議論が出来、自分にとって非常に勉強になりました。このプログラムに参加する前、自分は将来に関して不明確でしたが、沢山素晴らしい社会人の方とお会いすることで、自分も沢山の貴重な経験談を伺うことができ、将来の理想像が明確化したことを実感しています。8泊9日間のプログラムはあっという間に終わりましたが、これからも皆さんとお付き合いを大事にしていきたいと思っています。



余 梨彩
昭和女子大学 人間文化学部・英語コミュニケーション学科 3年

リードアジア2017の8泊9日を通して、普段知り合えない日中の他大学生と関わり、日中に関する様々なことをディスカッションしていくなかで、日中交流の大切さや大変さを改めて感じることができました。企業訪問を通して、中国という13億人の市場がいかなる魅力や多様性を持っているか学ぶことができ、今後、就職活動を始めるとしても、「軸」というものがある程度定義することができました。このプログラムに参加できたことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



劉 浩翔
大阪大学 工学部・応用理工学科 1年

最初は「企業訪問・日中交流」という形がなかなか面白いと思い、応募しました。実際に、各業界の企業を訪問してみると、将来は何をしたいかもっとわかるようになりました。合宿というのが初めてでしたが、みんなと一緒に泊まって、企業訪問に行ったり、遊びに行ったり、課題をやったりして、面白かったです。実行委員も全員学生ですが、このリードアジアプログラムを完璧に成功させ、素晴らしいと思います。



劉 心怡
中山大学 外国語学院・日本語学科 3年

リードアジアに参加させていただいて、本当にありがとうございました。正直、初対面の時に、皆さんの優秀さに驚き、私なんかの者がお共して大丈夫なのかと、恐縮したこともありましたが、いつも優しくしてくださっている実行委員と参加者の皆さんがいらっやっやって、不安が解消されつつあり、皆さんの笑顔で癒されていました。企業訪問も多様性豊かで、普段あまり接触していない業界にもお伺いすることができて、大変勉強になりました。9日間は短い間でしたが、貴重な経験や、築かれた絆は大切な思い出です。改めて、誠にありがとうございました。



陳 微
千葉大学 園芸学部・園芸学科 3年

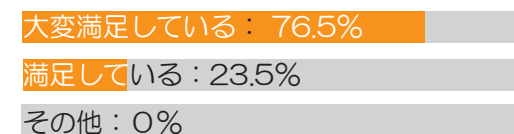
知人の紹介でリードアジアというプログラムを知ることができました。他のプログラムに比べ、企業訪問とワークショップのようなあまり見られない内容が充実しています。参加者の皆がそれぞれ個性的で、斬新なアイデアを続々と生み出していきます。このようなメンバーに恵まれ、素の自分でいられることができました。それに、頼れる実行委員の皆に憧れながら、心から頑張りたいと思いました。参加者をまとめてくれたり、プレゼンの準備でアドバイスしてくれたり、参加者の気持ちに配慮してくれて本当にありがとうございます。また、いつかどこかでお会いできるのを楽しみにしています。

3-2 参加者アンケート結果

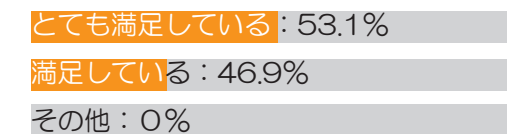
1. 応募倍率：6.7 倍

2. 満足度

全体の満足度：

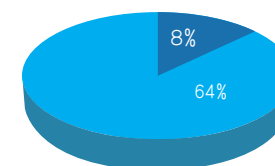
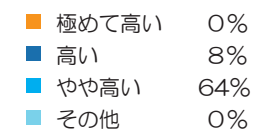


企業訪問満足度：

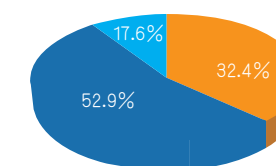
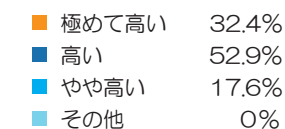


※その他は「普通」、「不満である」、「とても不満である」等の項目を含む。

3. 相手国への好感度



プログラム参加前

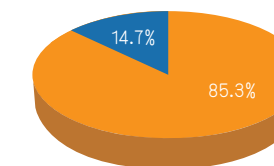
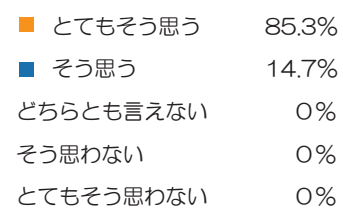


プログラム参加後

※その他は「普通」、「不満である」、「とても不満である」等の項目を含む。

4. 参加を終えて

今後も日中交流に何らかの形で関わりたいと思うか：



5. コメント抜粋

- 積極性をもっとつけたいと思いました。そして語学力をより高めたいです。グループワークでは人の意見をよく聞くことができたと思います。
- プレゼンやディスカッションが苦手でしたが、今は楽しくなってきました。
- さまざまなバックグラウンドを持つ人と話してみるこの大切さを学びました。
- 中国人同士で話す時も日本語で徹底したり、グループディスカッションにおいては、日本人に負けないぐらいたくさん意見をを出したりする姿勢を見習わなければならないと思いました。
- 昔、日本人は冷たいと聞きましたが、決してそうではないと感じました。みんな優しく暖かい人です。

4. 協力企業、機関一覧(訪問日順)

伊藤忠商事株式会社



伊藤忠商事は、初代の伊藤忠兵衛が1858年に創業して以来、近江商人の哲学である「三方よし」の精神をビジネスの場で実践しています。また、変化する社会からの要請に応え、自社の利益だけでなく、商いの先に広がる豊かさを提供することが、当社が果たすべき使命であり、「豊かさを担う責任」を企業理念として社会と共に成長して参りました。2014年に定めたコーポレートメッセージ「ひとりの商人、無数の使命」は、その企業理念に込めた想いをわかりやすく示す言葉であり、当社から社会へのコミットメントです。

SMBC日興証券株式会社



SMBC日興証券は、1918年に川島屋商店として創業以来、これまで、大切なお客さまとともに歩み、成長してまいりました。そして、2018年7月7日、当社は創業100周年を迎えます。これからも、「いっしょに、明日のこと。」をスローガンに、国内外において質の高いサービスを提供する本邦NO.1の総合証券会社を目指してまいります。

外務省

外務省は、国際社会の中で日本の安全と繁栄を確保し、国民の生命と財産を守る仕事をしています。中でも文化交流事業としては、各国・地域政府関係者、有識者、文化人等との交流、留学生交流や青年交流、スポーツ交流などの分野において、多くの取組みを行っており、国境や文化の垣根を越えた人と人との触れ合いを促進しています。

株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル

株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベルは、日本への外国人誘致を目的に105年前に創立されたJTB元来のミッションを受け継ぎ、訪日旅行(インバウンド)専門の旅行会社として、世界各国からお客様をお迎えしています。

藤田観光株式会社



私たちは創業より、事業を通じ社会に貢献し続ける企業を目指してまいりました。これからも常にお客様のニーズを捉え、「いつも、ありがとうのいちばん近くに」いられるよう、日々愚直に挑戦し続けることが極めて重要だと考えております。2020年に予定されている東京オリンピック・パラリンピック、そして観光立国に向けた各政策を機会として、観光立国のリーディングカンパニーを目指して、チーム藤田一丸となって新たなステージに向かって挑戦してまいります。

全日本空輸株式会社(ANA)



現在国際線・国内線とともに日本最大規模を誇るANAホールディングス株式会社は2017年まで、5年連続で、SKYTRAXの「5スターエアライン」(日本では唯一、世界でも7社のみ)に認定され、今後とも安心と信頼を基礎に世界をつなぐ心の翼で、夢にあふれる未来に貢献します。

株式会社三菱東京UFJ銀行



私たちは、中長期的にめざす姿として「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」を掲げています。グローバルに変化する多様なニーズに対して、グループ全員の力で、世界水準のトップクオリティを追求していくこと。お客さまの資産を守り、日本社会と世界経済の健全な成長を支える、最も信頼される頑健な存在であり続けること。多様化・ポータレス化する社会で、変化へ積極的に対応し、日本はもとより、アジア、そして世界においても選ばれる存在となること、という意味が込められ、全ての活動の指針となっています。

株式会社文明堂東京



株式会社文明堂東京およびそのグループ会社は、人々に笑顔を届ける歴史ある菓子舗として：「社会への貢献」、「顧客からの信頼」、「最高の品質、最高のサービス」、「たゆまぬ革新と前進」、「人々の幸福の追求」の5つの経営理念、および「最良の原材料を使い、最高の技術をもって、最高の品質の商品をつくり、販売員の真心のサービスを添えてお客様に提供し、良心的価格を守り、お客様を一回限りのお客様にしない」とする善意の積重ねの行動指針に則り、お客様や従業員など関わるすべての方の幸福を追求し続けます。

日本電気株式会社(NEC)



NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ類ないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、世界の国々や地域の人々と協奏しながら、明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。

5. 主催団体紹介

日中学生交流連盟 (Japan China Student Frontier Group)

日中学生交流連盟(JCSFG)は、2012年10月に設立されました。2012年は日本と中国にとって国交正常化40周年という節目の年を迎えた一方、尖閣諸島の問題を発端にかつてないほど関係が悪化した年でもあり、現在加盟している団体の中には準備していた活動の内容を変更せざるを得ない団体もありました。そんななか、日本と中国の学生のパイプをより太いものにすべく、日中交流に携わる5つの団体がJCSFGを立ち上げました。

2018年3月現在、「AFPLA東京大学支部」「OVAL JAPAN」「京英会」「京論壇」「紅葉会」「心連心OB・OG会」「日中学生会議」「日中学生交流団体freebird」「日本青少年友の会」「早稲田大学中国語学習会」(50音順)の10団体が加盟しています。各団体の活動は、ディベートやホームステイ、語学交流やビジネスコンテストなど多岐にわたります(詳細は「加盟団体紹介」ページをご覧ください)。JCSFGは、こうした活動をより活性化させていくためのプラットフォームとしての機能を担っています。今後も加盟団体同士で知恵を出し合い、力を合わせ、日中の学生交流の活性化に取り組んでいきます。



顧問/アドバイザー

◆顧問(敬称略)

谷口誠(元国連大使・桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問)
川西重忠(桜美林大学教授・北東アジア総合研究所所長)
楊光俊(桜美林大学孔子学院院長)
瀬口清之(キャンソングローバル戦略研究所研究主幹)

◆アドバイザー

森谷幸平(株式会社WEIC取締役)
福住俊男(グローバルマネジメント研究所代表取締役社長)

独立行政法人国際交流基金 日中交流センター (Japan Foundation-China Center)

独立行政法人国際交流基金は日本の国際文化交流事業を総合的に実施する専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月に独立行政法人となりました。現在、本部と京都支部、2つの付属機関(日本語国際センター、関西国際センター)、及び海外24か国に開設された25の海外拠点を中心に、外部と連携しつつ、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流を3つの柱として活動しています。

日中交流センターは、日中間の青少年交流を促進するために、2006年4月に国際交流基金に設立されました。日本と中国の将来を担う若者たちが未来を共に創るため、改めてこの絆を大切に、さらに大きな橋をかけたい…この想いのもと、主に3つの事業——次世代を担う中国の高校生を約1年間日本へ招へいする事業、日中の交流の担い手間のネットワークをつくり上げていく事業、中国の地方都市を中心に日本文化を伝えるとともに交流を行う「ふれあいの場」の設置・運営支援を行う事業——を推進しています。

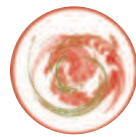


加盟団体紹介



AFPLA

AFPLA (Asian Future Political Leaders Association) は、政治学に関心のある東アジアの学生が一同に会する国際会議を一年に一度主催しています。東京大学、北京大学、ソウル大学校、復旦大学、台湾国立大学の学生が、一緒に学び考え、濃い議論を経て共同発表を行うことで、学問的な理解を深め、生涯の友を得ることを目指しています。2016年は台湾で開催し、教育・権利・安全保障の各テーマについて議論しました。



OVAL JAPAN

OVAL (Our Vision for Asian Leadership) は、「東アジア発のグローバルリーダーの輩出」をミッションに日中韓の三か国による、英語を用いた国際ビジネスコンテストを運営しています。実際に、日本・中国・韓国の学生が1人ずつ、3人1組となって計30チームでビジネスプランを競い合います。三か国それぞれに支部を持ち、毎年日中韓いずれかの国でコンテストを行うのが特徴で、2016年夏には北京で開催しました。

京英会



京英会は、「日中の草の根交流を学生間から地域・社会全体に広げていく」ことを目的に、日中学生間の交流活動を企画・運営しています。毎年夏には、日中の学生がともに、東京・鯖江(福井県)・北京に滞在し、ディスカッション・街頭インタビュー・地方見学・日中文化体験・ホームステイなどを行います。2016年は「教育」をテーマとし、お互いの国籍を超えた相互理解を目指し、日本語・中国語で議論を行いました。



京論壇

京論壇は、東京大学と北京大学による日中学生討論団体であり、両大学の学生が、互いの国に1週間ずつ滞在し、日中間に横たわる様々な問題について英語で本音をぶつけ合い徹底的に議論します。2016年度は「リーダーシップ」「社会的正義」「人口と発展」の3つをテーマとしました。また、その成果は、報告会やシンポジウムの開催、出版活動、学校訪問などを通じて、積極的に社会に向けて発信しています。



日中学生会議

日中学生会議は毎年8月の約2週間半、日中両国の学生が一堂に会し、「対話」を基本に討論や共同生活を通じて、日中両国の学生の相互理解を深めています。学生発の団体として、日中友好の実現に向けて活動しています。また、2017年で31周年を迎え、長い歴史の中で多くの優秀なOBOGを輩出しています。開催地は日本と中国の隔年であり、2017年は長崎、大阪、東京の3都市を訪れました。



日中学生交流団体 freebird

freebirdは、『日中の学生の相互理解の場を創出すること』を目的とし、2005年に設立されました。現在は、北京・上海・関東・関西に支部があり、支部ごとに様々なイベント、勉強会、交流会を行っています。2016年夏には、CHINATRIP2016という日中各地から集結した大学生による10日間の合宿イベントを開催し、「オリンピックと国民性」をテーマとし、オリンピックやその精神について理解を深めました。



早稲田大学中国語学習会

早稲田大学中国語学習会は、通称「チャイ研」と呼ばれる、1972年から続く元祖中国語学習サークルです。初心者からネイティブまで参加し、まったく中国語を勉強したり、留学生と交流したりしています。2016年2月には、サークル史上初となる海外合宿を、北京にて開催しました。合宿では、「日中友好のために学生が出来ること」「第二外国語を学ぶ意味」というテーマのもと、ディスカッションをしました。



心连心OB・OG会

「心连心」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現するため、日中両政府間の合意に基づく初めての長期招へい事業として2006年度より開始され、国際交流基金が主催しています。招へい生たちは、9月初旬から翌年7月下旬まで、日本各地に分かれ、ホームステイ先や学生寮に滞在しながら、授業・部活・学校行事など日本の高校生たちと同様の生活を送ります。「心と心をつなぐ」をモットーに、「心连心」というプログラム名称を用いています。

日本青少年中国語友の会

日本青少年中国語友の会

日本青少年中国語友の会は、桜美林大学孔子学院の附属団体です。中国語を学ぶ青少年(15歳から35歳)が主体となり、桜美林大学孔子学院で開催されるイベントなどに協力しつつ、日中交流・日中友好に貢献しています。



紅葉会

早稲田大学紅葉会は早稲田大学政治経済学部で発足された、中国人留学生を主体とする団体です。活動内容として、様々なイベントを企画することによって留学生と日本人学生が接触する機会を増やしたり、中国人留学生や他の学生たちの大学生活全般をサポートしたりするという理念を掲げています。

告知協賛

・ガクセイ基地

「学生の間に一生続けられるような“好き”を見つけ、将来の仕事にもつなげてほしい」「なんとなく将来を選択する学生をゼロにしたい」ガクセイ基地では、将来を決断するきっかけを与えるような、企業や学生団体の取材記事といった多様な情報を提供し、学生向け知識の宝庫を目指しています。



・ヒトツマミ

ヒトツマミは、一橋大学広告研究会HASCによる一橋生のための総合メディアです。「国立発!宇宙ぶっとびメディア」をコンセプトに、一橋生間の共通の話題になることを目指します。



・週刊ブレイズ

「週刊ブレイズ」は大手総合商社7社を対象とする商社専門紙です。大手商社の経営状況について、業績、財務体質、経営システム、コーポレートガバナンス、組織体制、各営業部門、人事制度、関係会社、事業投資、海外現地法人など、様々な分野を取材・調査・分析し、経営及び営業の現場に近いところで取材をして毎週レポートしております。



6. 学生実行委員紹介

水野 裕大 実行委員長
慶應義塾大学 経済学部 4年



オリエンでの「正直、5回も続くとはいわなかった。」創始者の林さんの言葉が印象的でした。本プログラムが記念すべき節目を迎えられたのも、歴代の先輩方から連綿と受け継がれてきた情熱と、コンセプトへの深い共感があったからこそです。そんな先輩方が作ったプログラムに負けないものを、という意気込みで1年間頑張ってきました。活動を通じて「カッコいい大人」の方々に（学生の想いに応えようと尽力して下さる方々に、何度も感銘を受け、胸が熱くなりました。）との出会い、実行委員の仲間たち、期間中の参加者の皆が見せた真剣な表情・笑顔・涙、全てが一生涯の宝物です、本当に有難うございました。学生とは違った立場で、今後は日中友好に貢献していくことになります。学生の想いや夢を応援できる「素敵な大人」でありたい、心から思います。

李 雅琴 副実行委員長
一橋大学 法学部 3年



1年生の夏休みにリードアジアに出会ってから、気づけば3度目の夏もオリンピックセンターで汗一杯流して過ごしていました。1年目は参加者として、2年目3年目は実行委員として、毎年新しい出会いがあり、沢山の思い出を作ってきました。このプログラムを通して、細やかな気づきでもいので、参加者の皆様に持ち帰って頂けたものがあれば嬉しく思います。プログラムの当事者から卒業する心境はとても複雑なものではありますが、この期間多くの関係者様にご協力頂いたように、自分もいつかは「支援者」として、未来の世代の力になれるような存在を目標に励んでいきたいと思えます。またとても若いプログラムなので、今後更に多くの学生を日中交流の輪に取り込み、年々進化していく姿が楽しみです。いつまでも応援しています！

萩野 雅彦 渉外担当
一橋大学 商学部 3年



このプログラムを通して、一生付き合っていける仲間ができたことは間違いありません。共に頭を悩ませ、共に楽しみ、共に寝る、そんな濃密な8泊9日を一緒に作ってくれた参加者、実行委員、関係者の皆さまには感謝しています。おかげで、プログラム後も同世代で頑張っている友人をみて切磋琢磨しあえる日々を送れています。長い学生生活のうちたった9日間でも、人と人のあいだに太い繋がりを作るという強い想いがあったからこそ、そこには悔しさ、嬉しさ、涙などが詰まっています。そこに国境は関係ないと信じています。

栗田 寛樹 日本側広報担当
一橋大学 経済学部 2年



昨年は参加者として、今年は実行委員としてリードアジアに関わらせて頂きました。参加者の時にはとても長く感じられた8泊9日間でしたが、半年以上準備してきた今年はそれが本当にあっという間に感じられました。しかし、それでもリードアジアが最高に充実した日々を与えてくれるプログラムであることには変わりありません。準備期間には、実行委員でなかったら決して経験できない時間を沢山過ごせました。実行委員でプログラムの内容について熱弁し合ったのは貴重な思い出です。プログラム本番では、私自身も一参加者として前年と同じくらい大きく成長することができました。来年度は実行委員長としてリードアジアを引っ張っていく存在になりたいです。

山口 悠希 日本側参加者対応担当
創価大学 文学部 4年



リードアジアプログラムと出会わせて頂いたことは、私にとって学生時代の原点の1つになりました。1つの課題に対して、日中の学生が真剣に思いを語り合うことが出来、さらにお互いの夢を話せること。楽しいことだけではなく、辛いことも共に共有し、乗り越える経験は、本当に得難い機会だと実感しています。昨年度は参加者として、今年度は実行委員として、2つの全く違う立場から、プログラムに携わったことは、プログラム発足時から、活動を支えてきて下さった方々一人ひとりの思いを様々な角度から学ばせて頂いたように思います。この様に歴史を刻み続ける、一点に携わったことに感謝すると同時に、とても誇りに思います。これから、大学卒業後も日中の未来について共に考えていける素敵なメンバーとの繋がりを大切にしながら、常に「心を繋ぐ交流」について考え、また行動していける自分自身でありたいと思います！本当にありがとうございました。

唐 凱琳 日本側参加者対応担当
一橋大学 商学部 3年



来日3年目の中国人留学生として、日本も中国もある程度客観的に理解できるようになってきた中で、いつか日中交流のかけ橋になればいいなとも思っていました。企業訪問・文化交流を軸とするリードアジアプログラムの実行委員として関わってきたこの1年間を振り返ってみると、まさにそのような夢が少しずつ実現でき、自分の成長にも繋がるような掛け替えのない経験でした。濃密で参加者にいっぱい楽しんでもらうために毎週恒例のミーティングにて実行委員間の切磋琢磨や、9日間も共同生活する参加者たちがバックグラウンド・価値観の壁を越えてお互いのことを真剣に語り合うことを通じて、「一人ひとり」の「交流」がいかに大事なのか改めて感じました。リードアジアの旅は終わりましたが、日中両国がこれからも理解しあい続けること、対話し続けることに終わりはないので、これからも引き続き日中交流に自分の力を出していきたいです。

田 子健 中国側広報担当
北京外国語大学 日本語学部 4年



参加者選考が始まる前、意図的に日中交流に興味を持っていなかった日本人学生を呼び込み、活動を通して、参加者に価値観の変化を求めたいという方針を立てました。しかし、実際のところ、日中交流に触れたことのある私でも自分の中の環境の変化を感じてきました。日中の枠を超えて、そうそうたるリードアジアの皆さんの一人ひとりの人間性から刺激を受け、交流しながら、自分自身の人との接し方・仕事のやり方・問題の捉え方を考え直し、従来の自分を変えるようになりました。「今の自分を変える・今の日中を変える」、短い期間でどれくらい日中関係を動かしたのかはよく分かりませんが、リードアジアのおかげで「人が本当の意味で理解しあえる日がくる」ことを信じるようになったのが現在の私です。是非とも日中交流の輪を広げるリードアジアをさらに盛り上げていってください！

徐 夢婷 中国側参加者対応担当
上智大学 文学部 4年



リードアジアと出会った2年間は、私の留学生活の中、非常に有意義であり、忘れられない経験だと思えます。日中両国の大学生が8泊9日間の共同生活で、お互いに協力して様々な課題に取り組み、一緒に東京で遊んだことによって、無意識の間に文化、風俗、価値観などの深い交流ができたのがリードアジア最大の魅力だと、私は参加者としても、実行委員としても実感しました。現在、日本でも中国でも、相手国に無関心の若者が多くいることに対して、リードアジアは「これまで日中交流に馴染みのなかった学生に日中交流の楽しさ・意義を感じてもらおう」ということを最大の目的としています。今後も、このプログラムを契機に、中国と日本の若者たちが一人でも多くお互いの国に興味や関心を持ち、政治、経済、文化、様々な面で相互理解を深めていくことを心から願っています。

7. リードアジアへのご協力・ご協賛のお願い

日中学生交流連盟では、リードアジア2018プログラム（2018年8月18～26日に実施予定）にご協力いただける企業を募集しております。

第6回目のプログラムとなるリードアジア2018では、「心を繋ぐ、日中を繋ぐ、世界へ繋ぐ」をコンセプトに、より幅広い業界への訪問・スポーツを取り入れた文化交流・これまでのリードアジア参加者との繋がりの強化といった新たな取り組みを計画しております。

- 協力形態：
- ①学生の受け入れ（企業訪問・ご講演）
 - ②協賛金の提供
 - ③参加学生募集の際の広報活動

学生の受け入れについては、オフィスや施設の見学、企業や業界についてのご講演、学生の議論活動のテーマの提供といった形態でのご協力を計画させて頂いております。

ご検討いただける企業様は下記連絡先までご連絡下さい。

ご協賛のお願い

日中学生交流連盟、及び連盟加盟団体では協賛金をお受けしております。（協賛金の用途はご指定いただくことが可能です）

お受けした協賛金は、連盟が責任を持って管理し、用途をご報告させていただきます。日中学生交流連盟及び加盟団体一同、日中関係の一層の発展に向けて励んでまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、協賛して頂いた場合には下記の特典を進呈いたします。

- ①年次報告書の送付
 - ②連盟、及び加盟団体の各媒体にて協力形態を明記
 - ③連盟、及び加盟団体にて広告の掲載
- ※詳しくは日中学生交流連盟までお問い合わせください。



日中学生交流連盟
Japan China Student Frontier Group

E-mail : jcsf.frontier@gmail.com
rleadasia2018@gmail.com

Facebook : <https://www.facebook.com/jcsf.frontier>

国際交流基金日中交流センター
Japan Foundation China Center

Tel : 03-5369-6074

HP : <http://www.chinacenter.jp/>

